

インドネシア活動報告⑦

株式会社マジオネット

JICA 青年海外協力隊 2016 年度 2 次隊

山口 麗子

【今月(9/15~10/15)の活動】

- ・学校巡回(計 9 回) ・ごみ銀行訪問(計 7 回) ・紙リサイクルギャラリー訪問(2 回)
- ・安全対策研修 ・環境教育隊員分科会 ・JICA 職員ロンボク視察(2 回)

◎学校巡回

今月も学校巡回はスムーズに行うことができた。担当職員より来月からは重点的に訪問している学校においてコンポスト(有機ごみを堆肥化するための方法)の製作実演を行って行きたいとの話が出ており、今はその準備に追われている。コンポストは何よりも継続が大事であり、学校に設置してもしっかりと管理方法や担当者を決めさせなければ長続きしない。過去の隊員もコンポストは作ってきたが、今は機能せず使われていない学校がかなり多くあると聞いているので、担当職員やコンポスト製作に詳しいごみ銀行のスタッフとも相談しながら方法を考えていく。

◎ごみ銀行訪問

学校巡回後のごみ銀行訪問では、ごみ銀行の運営状況の調査と今後の学校巡回に講師として一緒に回ってもらえないかの協力依頼を行っている。配属先管轄地域である西ロンボク県のごみ銀行は設立して 1, 2 年の新しい場所が多いので、活動規模はまだ小さく、運営の問題を抱えている場所もある。近所のごみ銀行はできるだけ頻繁に訪問し、情報収集を行うと共に、今後の協力体制を整えて行きたいと考えている。



最近、一緒に活動している Paizul さん
Bank sampah KEKAIT にて

◎紙リサイクルのギャラリー訪問

10/11 ごみ銀行を訪問していく中で、州都にて紙のリサイクル作品を作っている方からコンタクトがあり、訪問を行った。コピー用紙だけでなく、お菓子の箱や教科書などあらゆる紙を使って様々な作品を作っていた。この技術があれば、机や椅子、ごみ箱など、お金が無くて買えないと言われているものをごみから作ることができるので、今後に大きな可能性を感じた。環境教育の一環として住民に広げるだけでなく、ビジネスとしてもやっていけるよう販路拡大に向けて協力していける方法を考えていく。



左から 2 番目が製作者の Theo さん。
手前のテーブルや椅子、壁のモニュメントも紙からできている。

◎安全対策研修

9/15 ジャカルタにて JICA 主催の安全対策研修が行われた。今回は、外部講師を招いての研修で、日常の防犯や事故防止対策、止血法や救急救命法の実習、テロ対策など多岐に渡る内容であった。最近では、配属先事務所の備品がなくなる事案も発生しているので、防犯対策を怠らないように注意して生活していく。

◎環境教育分科会

9/16 インドネシアで活動する環境教育隊員で集まり、お互いの活動報告や今後の分科会開催について話し合いを行った。また、JICA 専門家も招き、インドネシアのごみ処理についての法令内容やしぐみを教えて頂いた。環境隊員は現在 5 名いるが、各々活動内容や環境が違っており、今後の活動に活かせる知識を身につけることができた。今後は積極的に情報交換を行い、インドネシアの環境教育の発展の為に活動していきたい。

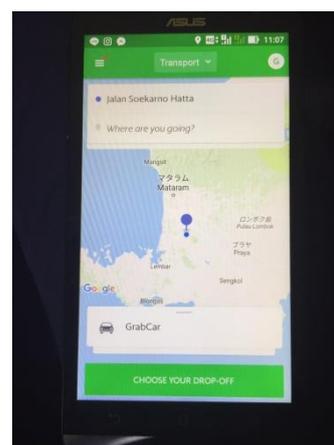
【日常生活について～結婚式～】

インドネシアは若年層がとても多く、毎月のように知り合いが結婚をしていく。今月は、ホームステイ先のホストマザーの姪が結婚したのでセレモニーに参加した。インドネシアの結婚式は自由入退場となっており、受付をした後、新郎新婦とその両親に挨拶の握手を交わし、各自ビュッフェ形式の食事をとるだけの内容である。主催側は家系ごとに揃いの衣装を着て招待客を出迎える。



【交通面について～タクシー事情～】

今回は、タクシーについて報告する。馬車がいまだに走っているロンボクでも、タクシーは多く存在する。中でも、「Blue bird」という会社が一番安全と言われているが、メーター制なので渋滞にあうと大きな出費となる(とはいえ初乗りは 50 円～)。そこで最近話題になっているのが「Uber」「Grab」というアプリを使った個人タクシーのサービスである。いつでもどこでもアプリで乗降場所を指定でき、予約の時点で距離に応じた運賃が決まるというシステムである。しかも、通常のメータータクシーの運賃より 2 割ほど安い。車さえ持っていれば誰でもドライバーとして登録できるので、安全性ではやや不安があるが、毎回の乗車ごとに行う評価システムもあるので、ある程度信頼できるドライバーを選ぶこともできる。便利なサービスだけに、正規のタクシー業界では不正だと問題になっているらしいが、今後、もっと拡大していくのか抑えられていくのか気になるところである。



Grab の配車画面。近くにドライバーがいると画面に表示される。まだ州都マタラムでしか発達していないので、家の近くでは使えない。